

できた!

わかった!

たのしいよ!

パートⅡ

～そう感じることができる保育を～



大阪市こども青少年局保育施策部保育所運営課



## はじめに



大阪市では、発達障がいのある子どもの早期発見・早期理解・早期支援の観点から、保育所における発達障がいのある子どもの支援充実のため、平成21年度から3年間『発達支援モデル研究』に取り組んできました。その後、モデル保育所を中心とした公立保育所での実践・検証と、民間保育所への支援の共有・普及を行い、保育士の専門的スキルの向上と、人材育成を進めてきたところです。

この冊子は、平成24年3月に作成した【発達支援プログラム冊子 できた！わかった！のしいよ！】の続編としてまとめたものです。今回は、冊子を活用しながら個別の支援に取り組む中で保育士の気づきが深まり、より一人一人に応じた支援を行った具体例や、早期理解の観点から、乳児期における保育の振り返りによって、早期に子どもの困りを理解することの大切さ、そして早期支援の為に保護者連携について紹介しています。

発達障がいを含め障がいのある子どもたちには、早期からの支援が必要で、保育所においても子どもの困りに気づき、保護者や関係機関と連携して、子どもの特性を生かした適切な支援を行うことが大切であると考えます。

1冊目に続きこのパートⅡが、日常生活において発達障がいのある子どもを中心に、保育場面での困りを理解するための参考となり、一人一人の保育所生活が充実したものになるよう、活用していただきたいと思います。

平成27年3月

大阪市子ども青少年局保育施策部保育所運営課

# も く じ

はじめに

- 第 1 章 個別の状況に応じた具体的支援について（応用編）・・・1
- わかり、自分でできるための支援
  - 感覚過敏を和らげるための支援
  - わかり、自分でできるための支援（制作活動）
    - ・顔がイメージしにくい場合の支援
  - 全体活動に参加しやすくするための支援
    - ・個別指導計画 沈黙の練習
  - コミュニケーションを円滑にするための支援
  - 切りかえの弱さを補うための支援<共に育ち合う>
  - 不安感を和らげるための支援
    - ・個別指導計画 遊びのひと工夫
  - 行事に参加するための支援
    - ・個別指導計画
  - ちょっとひと工夫
- 第 2 章 乳児期における『気になるこども』に関する気づきの観察事項  
(チェックリスト) の活用について・・・15
- 個別の状況における事例より
  - 乳児支援グッズ
  - 乳児保育室の構造化
- 第 3 章 保育所内支援体制づくり～保護者と共にすすめる支援～・・・25
- 個別支援計画と個別指導計画の作成と支援の流れ
  - 計画作成と支援の流れ
  - 保護者支援の流れ（タイムスケジュール）
  - 保護者の心情理解

できた！わかった！たのしいよ！パートⅡの刊行にあたって

大阪府立大学准教授 里見恵子